

青少年に聞いてみました！

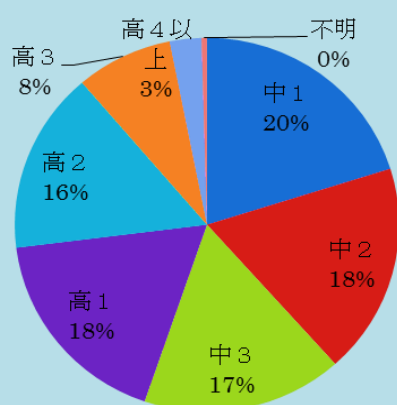
「居場所」ってある？ない？

あなたにとってどんな場所？

今回の調査について（実施期間：2017 年 1 月～2017 年 3 月）

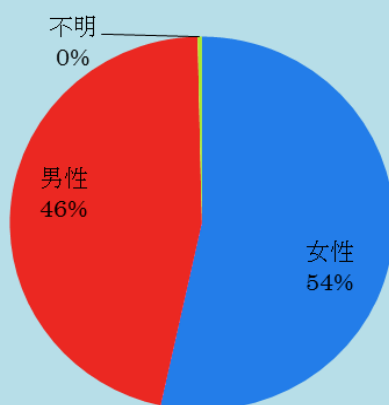
本調査では、青少年にとって「居場所」と感じられる場所の有無や、「居場所」と感じられる具体的な場所、「居場所」と感じる場所の心理的機能についてアンケート調査を実施しました。集計結果の概要をご報告することを通して、青少年にとって「居場所」と感じられる場所がより一層充実していくことを心より願っております。

アンケート回答者（有効回答数 2629 人）



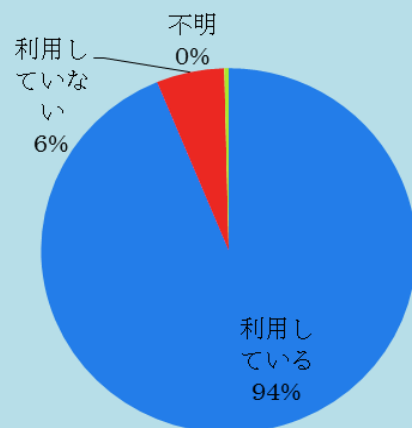
学年

中学生：1453 人
高校生：1164 人



性別

女性：1405 人
男性：1215 人

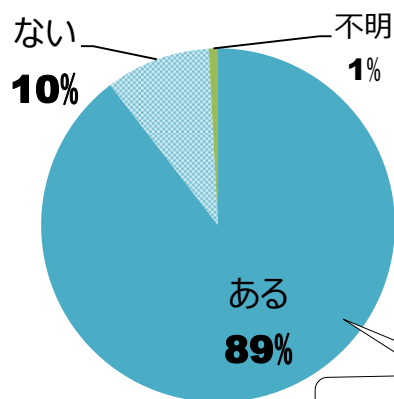


携帯電話・スマホ利用の有・無

利用している：2465 人
利用していない：154 人

横浜市中学校・高校に所属する 2629 人にご回答いただいたアンケートの結果をもとに、青少年にとっての「居場所」について考えてみました。

1 中高生のおよそ 90%は「居場所がある」と感じている

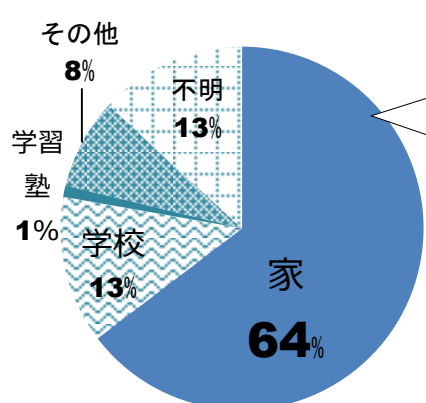


* 本調査では、『居場所』を「いつも生活している中で特にいたいと感じる場所」と定義しています。

* 「いつも生活している」環境の中で、「居たい」と感じられる場所（＝居場所）をもっている中高生が大半を占めていますが、「居場所がない」と感じている中高生も 1 割程度いることが分かります。

あなたには「居場所」だと感じる場所がありますか？

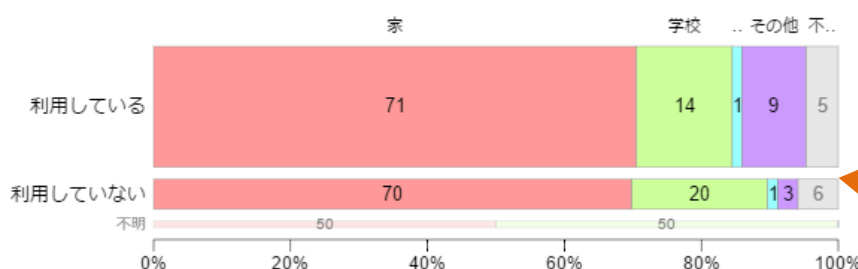
2 「居場所がある」と答えた中高生のおよそ 60%が「家」、20%が「学校」を「居場所」と感じている



あなたが「居場所」と感じる場所を具体的に教えてください。

* 「居場所」と感じる具体的な場所としては、中学生・高校生ともに「家」と回答した人の割合が最も高く、「学校」が 2 割、学習塾など「その他」が 1 割でした。

* この結果から、中高生にとって、「家」はもっとも基本的な「居場所」として重要な役割を担っていると言えます。



携帯電話・スマートフォンを利用していない人は、利用している人に比べて「学校」を居場所と感じている割合が高いという結果がでています。

* 「その他」の具体的な内容では、「友人」と回答した人が最も多く、他に「ダンスなど習い事」、「ゲームセンターなど商業施設」、「Twitter、SNS、オンラインゲーム」などの回答が複数ありました。

* 「家と学校と友人」等の回答もあり、ひとつの場所ではなく、生活環境全体が「居場所」と感じられていることも分かります。

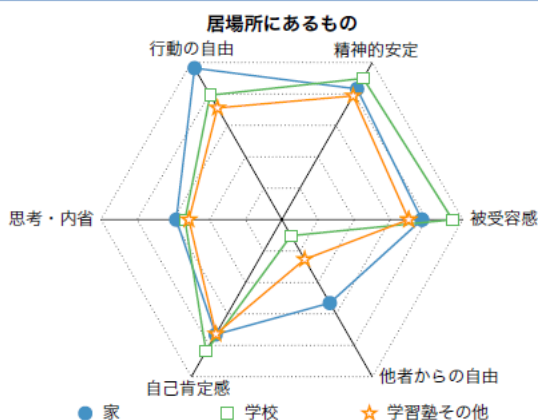
その他の内訳

	中学生	高校生
1	友人	友人
2	スポーツ活動	アルバイト
3	自分のベッド・部屋	自分のベッド・部屋

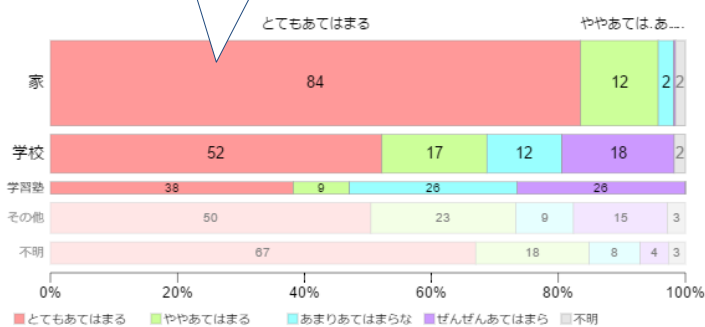
中学生では野球やサッカーなどスポーツ活動、高校生ではアルバイトが増えています。

3 すべての場所に共通しているのは「行動の自由」を感じられること

本調査では、『「居場所」の心理的機能尺度』（杉本・庄司,2006）の質問項目を通して、①被受容感、②精神的安定、③行動の自由、④思考・内省、⑤自己肯定感、⑥他者からの自由の6つの尺度で「居場所にあるもの／求めるもの」の心理的機能を計りま



Q「寝ることができる」（行動の自由）【居場所別】



＊「行動の自由」とは、「寝ることができる」、「自分の好きなことができる」、「自分のものがある」など、自分の行動を自分で決めることができる自由を表しています。

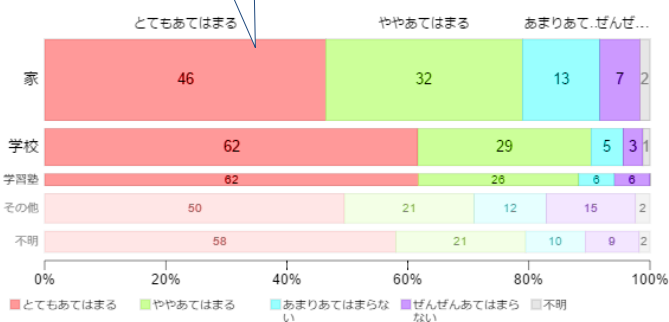
＊ 今回の結果から、「行動の自由」を感じられる場所は、中高生にとって「居場所」となる可能性が高いと考えることができます。特に「家」を居場所として選んだ人は、「寝ることができる」を評価する度合いが高く、寝ることができるほど安心感を持てる場所が、「家」であり、こうした居場所を中高生が求めていると考えられます。

4 学校は、「自己肯定感」や「精神的安定」、「被受容感」を感じられる「居場所」

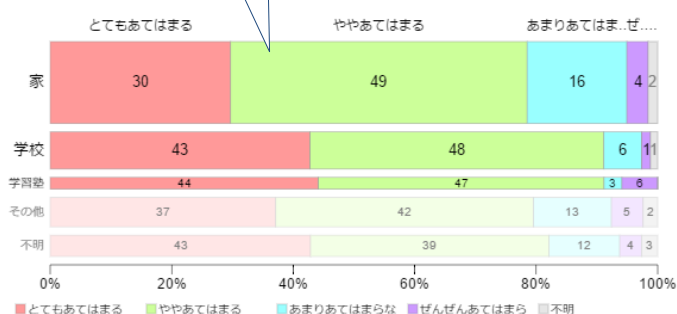
＊「居場所」によって、求められる機能は異なります。学校は、他の場所に比べて「自己肯定感」や「精神的安定」、「被受容感」を感じられる場所になっていることが、アンケート結果から見えてきました。

＊ 学校は、「おもしろくて、自分の能力を発揮することができ、悩みを聞いてくれる人がいる場所」として、中高生の「居場所」になっていることができます。

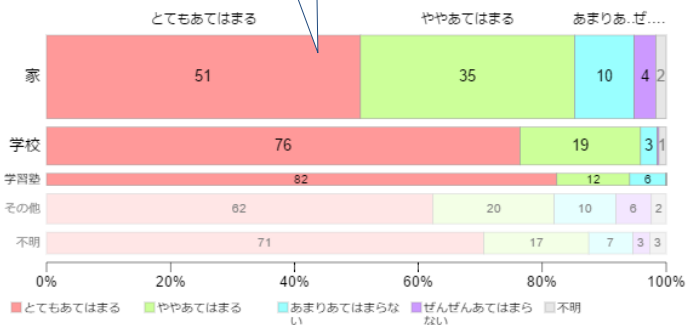
Q「悩みを聞いてくれる人がいる」（被受容感）【居場所別】



Q「自分の能力を発揮できる」（自己肯定感）【居場所別】



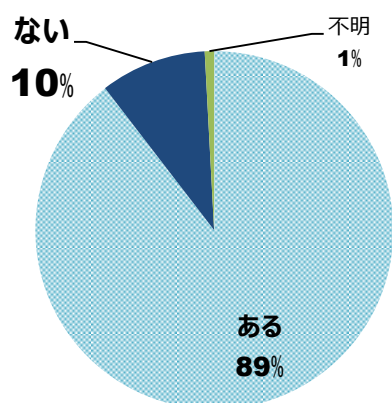
Q「おもしろい」（精神的安定）【居場所別】



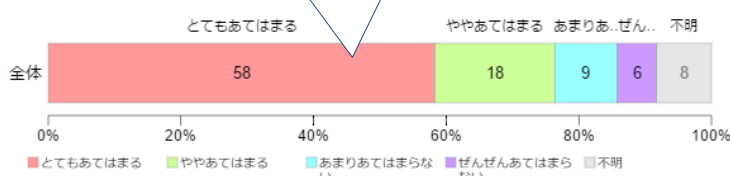
5 青少年の 10 人に 1 人は「居場所がない」と感じている

* 今回のアンケート調査では、およそ 10% の青少年が「居場所がない」と感じていることが分かりました。

* 「居場所がある」と回答している人の 6 割が「家」を居場所として選んでいる中で、「居場所がない」と回答している人にとっては「家」が十分な居場所と感じられていない現状があります。



Q「寝ることができる」(行動の自由)【「居場所がない」と回答した人】



Q「一人ではない」(被受容感)【「居場所がない」×性別】



* 「居場所がある」と回答した人と同様に、「居場所がない」と感じている青少年が居場所に求めている度合いが高いのは、「行動の自由」でした。特に、「寝ることができる」、「好きなものがある」ような安心感のある居場所を求めていることが、結果から見えてきました。

* 性別で見ると、「居場所がない」と感じている男性は女性に比べて、「一人ではない」「人と一緒にいられる」ような被受容感を感じられる「居場所」を求める傾向があります。

6 求められる第3の「居場所」

* 青少年にとっての「居場所」とは、「家」や「学校」など身近な場所で見出されることが多く、場所によって求められる機能は少しずつ異なります。いくつかの場所が補い合う中で、「居場所がある」と感じられる状態が生まれていると考えられます。

* 「居場所がある」と感じている青少年は、精神的安定や被受容感、自己肯定感を居場所に求めることができます。その一方で、「居場所がない」と感じている青少年にとっては、こうした基本的な欲求を満たすよう「家」や「学校」以外の「居場所」が必要とされています。

おわりに

今回のアンケート調査では、青少年が「居場所」と感じるのはどのような場所なのか？物理的な場所の特性より心理的な機能に着目した調査を行いました。「居場所」という言葉が直接的に結びついているのが安心感のもてる「家」であること、「学校」は他者と一緒に過ごすなかで自己肯定感や被受容感が育まれる場所であること、そして「居場所がない」と感じている青少年がいることが分かりました。

調査結果は、今後青少年の「居場所づくり」をはじめとした青少年育成活動に活かしていきたいと考えています。

本調査は、一般社団法人横浜すばいすの協力のもと、公益財団法人よこはまユースが実施しました。

●本調査に関するお問合せ ●公益財団法人よこはまユース 事業課 TEL:045-662-4170 MAIL:kikaku@yokohama-youth.jp